上海日本人学校の経営

── 大規模校における転出・卒業の進路指導 ──

前上海日本人学校　校長
北海道室蘭市立蘭東中学校　校長　泰　地　和　幸

キーワード：大規模校，転校生，進路指導，現地校国際部，進路の多様化

１．はじめに

平成17年４月12日60学級（前年度比＋12学級），小学部1,742名・中学部374名，全校児童生徒数2,116名（前年度比＋425名），文部派遣・現地採用教員83名で新学期を迎える。（１月23日には2228名～世界一の日本人学校）小学部１年生303名（10学級）の入学式を終え，午後には中学部１年生153名（５学級）の入学式，体育館に収容できず，３回（小：低学年，高学年，中学部）に分けて行った始業式。

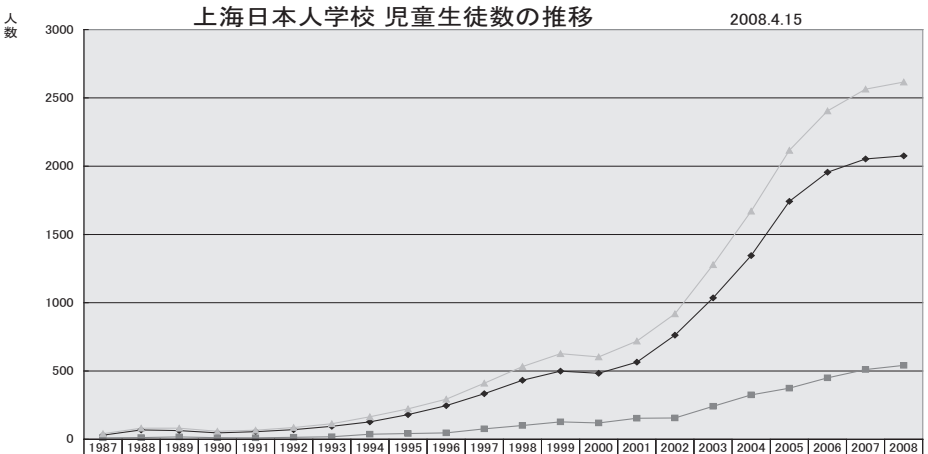
マンモス校での新学期は，前年通りにならない学年・学校行事，超大規模校の良さを引き出す教育課程の工夫，児童生徒の安全に配慮した教育活動，中国・上海の地域性を生かした特色ある教育実践等々，児童生徒の急増期における大規模校の学校経営と，翌春開校の新設校（浦東校）の対応を待ったなしで進めなければならないスタートであった。

２．活力ある中国・上海

日本の25倍の広大な国土，56民族（漢民族92％，その他は少数民族）の多民族国家をかかえ，風土も言葉も，文化も異なる大国，近年は世界最大の生産地から13億人の世界最大の消費地へと変貌しつつある国，中国。

東方明珠電視塔（高さ468m）や金茂ビル（420m），上海環球金融中心・上海ヒルズ（492m）の高層建築が立ち並ぶ近代的建築物と租界時代の歴史的建築物が混在する，不思議でエキゾチックな都市，上海。経済の成長と発展が著しい上海では，世界の大都市に肩を並べるほどのエネルギッシュな賑わいがあり，2010年には，上海万博が開催予定され，地下鉄の交通網やインフラ整備や万博準備が急ピッチで進められている。

国際・金融都市である今日，世界中から多くの外資系企業が進出し，日系企業も6,000社を超え，多くの駐在員を抱えている。在留邦人も在外公館（上海総領事館）への届出数がH19：48,000人（H18：44,000人，H17：40,000人）ともいわれ，生活条件の向上に伴い，子どもを帯同してくる在留邦人が増加し，学齢前や小学校低学年の数も年々増え続けている。



	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
小学部	30	69	64	47	56	71	95	128	181	247	334	432	499	483	565	763	1036	1345	1742	1955	2053	2075
中学部	11	13	18	12	11	15	19	37	42	47	77	101	128	120	154	156	242	325	374	450	511	541
合計	41	82	82	59	67	86	114	165	223	294	411	533	627	603	719	919	1278	1670	2116	2405	2564	2616

年度

３．上海日本人学校

(1) 校舎増築と第２キャンパス

昭和50年，在上海日本国総領事館の一室で７人のための上海補習学校として始まり，昭和62年４月に日本人学校が創立され22年目。現在では虹橋校・浦東校と合わせて児童生徒数が2,600名余（平成20年４月）を超え，世界で最大規模の日本人学校として，その隆盛を見るに至っている。

「上海市発展の歩み＝日本企業の進出＝児童生徒数の急増＝本校の歴史」と重なり，上海日本人学校創立からの20年間，虹橋校の開校時からの児童生徒急増の10年間は，１期校舎から２期増築，３期増築，プレハブ校舎を経て，４期東校舎建設にわたる「校舎増築，建設」の10年間でもあった。

創立20周年と期を一にして，急増に対応するため，また将来を見据え，2006年（平成18年）４月，浦東新区に第２キャンパス・浦東校（普通教室36学級）を開校する。９月着工から４月までの７ヶ月間で開校した浦東校は在上海に果たしてきた上海日本人学校の輝かしい歴史と伝統を大きく飛躍させ，21世紀を歩む日本人学校になってほしいと願いがいっぱい込められて，開校した学校である。児童生徒増の勢いは止まず，開校３年目には，会議室・多目的室を間仕切りし，普通教室４学級増の40学級にし，H20年度の始業式を迎えた浦東校である。

【虹橋校の春】

【新校舎の浦東校】

(2) 全校児童生徒が転校生

上海に限らず，日本から海外へ赴任する者にとって，子どもの教育は最も悩ましい問題の一つである。子どもが学校に馴染むことができるか，日本と同程度の教育水準を保つことが出来るのか，日本での受験の際に不利にならないのか等々。特に中国の場合は，急激な発展スピードを背景にした企業進出の増大に比して，日本での一部の中国の反日報道等で，保護者の中には子どもを中国に同行させることをためらう人達もいたという。又，子ども達もその雰囲気を察してか，居住・教育環境を不安に思ったり，日本での進学の遅れになると信じて，逃げ腰になるケースもあるという。

上海日本人学校の在校生は一見，日本国内の子どもたちと同じに見えるが，全員が「転校生」である。突然の親からの転校の話，「転校！，それも中国・上海？」。多くの子どもたちは，「転校，嫌！」と反発し，「友達ができるかな？」と不安を抱え，初めての外国の学校，上海日本人学校へ転入してくる。

しかし，かっての転校生である在校生は，彼らを，時間を掛けながら，気遣いながら，温かく受け止めていく。学校に響き渡る小１～中３までの子どもたちの声，昼休み時間ともなれば，時間いっぱい，グランドや体育館を走り回り，授業中は一生懸命学習に集中する。小中合同の運動会や学習発表会の行事，現地校との交流学習でも，全員が一丸となって取り組み，感動的な一日を演出し，皆で協力して頑張る。「明るく，元気で，よく学び，よく遊ぶ」子どもたちの笑顔がとても似合う上海日本人学校の日々。

その転入生であった子どもたちは，本校の卒業や転出時には，「上海日本人学校，大好き！」「中国・上海，大好き」「こんなチャンスをくれたお父さんに感謝したい」と日本への帰国や世界各地へ旅立っていく。

世界一の日本人学校でたくさんの笑顔に出会い，学び，そして交わり，世界一の学校生活を満喫している上海日

本人学校の子どもたちから，私も多くの感動と喜びを貰った３年間であった。

４．現地での実践　～　転出・卒業後の進路先の課題への対応　～

2006年３月10日（金），上海日本人学校中学部卒業式。卒業生の一部は自分の意志・選択で，日本に戻らず，現地校（国際部）やインターナショナル校へ進学する道を選んだ。又，当初は「どうして中国に来たのか」と保護者に対し，文句を言い，被害者意識を持ち，葛藤していた子どもたちが，転出・卒業時には「中国に来て良かった」「日本各地，世界に友達をいっぱい作れた」「将来，日中の架け橋になりたい」と話し，日本に帰国し，進学していく。

在外教育施設の校長の職責として，「児童生徒が安心・安全に学べる学校経営」と同時に「進路指導」は大きな柱でもある。上海日本人学校は児童生徒の編入生（転入生）の急増に伴う，いろいろな緊急課題を生み出しているが，転出（卒業）する児童生徒の進路指導も大きな課題のひとつになってきている。

転出（卒業）後の進路先は十人十色であり，特にここ数年，現地校の国際部への編入学や入学する児童生徒が増えつつあることから，ここ数年間の進路指導の実践を整理してみる。

(1) 進路先の多様化から（日本・インターナショナル校・現地校）

在外教育施設設立の趣旨は「帰国後，子ども達が国内の学校へ戻ってからも，日本の学校で適応・対応できる学力や能力を培う」目的であるが，上海日本人学校では保護者の在留期間の長期化や国際結婚での児童生徒の増加で，転出（卒業）後の進路先が日本国内への学校選択のみでなく，現地校や現地校国際部インターナショナル校等への転出・進学と多様化・拡大している。このような実態から，上海日本人学校の転出生や卒業生の進路指導の押さえやねらいも大きく変化せざるえない状況になってきている。

また，国際都市・上海市の在留邦人は勿論，外国人子女も急増し，現地校では，ここ２，３年，外国人子女を対象にした国際部を設置し，外国人子女を獲得しようとする流れが激しくなっている。現在では韓国・台湾・香港・日本等のアジア諸国の外国人が在籍する現地校が増えてきている。大学附属の国際部では，高校卒業後は推薦入学で大学へ進学していくものも多く，世界各国の有名大学への進学にも力を入れているので，人気が高い。

【本校の児童生徒の進路先】

長期間，在籍する児童生徒や国際結婚家庭の児童生徒，北海道から沖縄までの都道府県出身の多さ，日本国内の小中学校を知らない児童生徒等々，1,000人～2,000人規模の上海日本人学校（虹橋校・浦東校）では様々な事情を抱えた転出（卒業）する児童生徒の割合が高くなってきている。本校の転出（卒業）後の編入や進学先の多くは日本国内の国公立校が主であるが，近年は上海市内の現地校国際部を選択する児童生徒が増えつつあり，数名が中国国内や世界各地の高校進学やインターナショナル校を選択している。

◎《年度途中での転出・編入学》……上海での生活・教育・医療等のインフラがこの数年間で整備され，駐在者が家族帯同型に増加する傾向にある。当初は多くの方が日本人学校を選択する保護者（児童生徒）であるが，「せっかく中国，外国に来た」のだからと，駐在初めから，義務教育段階の児童生徒が現地校やインターに在学する。その数は300名を越えているといわれている。また年度途中や学期末，学年末に本校を退学し，現地校やインターナショナル校を選択する割合が増えてきている。

◎《卒業後の入学》……本帰国年度でない駐在者の卒業する子どもや，国際結婚での子どもたち（本校で11％）が，選択肢の一つにして，中学部卒業後の現地校国際部に進学していく割合が年々高くなり，２割に達している。　‘04：５校15名，‘05：４校11名，‘06：７校15名，‘07：９校18名

※　現地校国際部やインター校の授業は使用言語が中国語や英語なので，語学の習得が未熟な生徒は授業を理解していくために相当の努力が強いられる。言葉の壁は厚く，授業で学んだことを帰宅後も復習に時間をかけなければならないといった状況であることから，本人や保護者の相当の意志と覚悟が求められる。

このような進路先の多様性・拡大化の実態を受け，本校の教育方針として，日本国内の私学や公立校，現地校や

現地校国際部，インターナショナル校への進路指導を重点的に取り組む必要性が求められてきた。

(2) 進路指導の拡大・充実について，

在外の保護者や児童生徒の心配や不安のひとつに，帰国後の「進路」がある。本校では年度内途中の転出が平均200名と多いが，年度末の転出生（150名～200名）や卒業生も年々増えつつあり，その転出先・進学先が多様化している。また中学部の生徒増加にも新たな対応が求められ，特に中3の増加の割合が大きい。この4年間の在校生（卒業生）数は倍増である。【'04年：59名→'07年：123名】

現地校国際部への編入・入学は，かっては，保護者個々が通訳を介し，電話をし，学校見学や進路相談等で，進路情報を得，編入学や進学の手続きをとっていた。その後，PTAの活動として学校見学を実施（中身は学校がお膳立て）し，進路情報を得ていた。本校では保護者の切実な願いを受け止め，進路情報の拡大・充実を図る取り組みをする。

① 学校として

・現地校国際部の学校説明会…… '06年，本校を会場にして，現地校国際部の説明会（全体説明会・個別相談）を実施。年々，参加学校数が増え，保護者の参加も増え，充実してきている。
（'06年：1日開催，参加校：5校，保護者100名，'07年：2日開催，参加校：8校，保護者120名）

・本校会場での学校説明会の開催……上海へ来ていただき，直接，日本国内の中高校の先生からの学校説明・進路相談の説明会（全体・個別）。参加校を増やしている。（'05：10校　'06：15校　'07：20校）

・海外入試の実施……本校会場や上海市内での本番入試（'05：7校　'06：8校　'07：11校）

・教職員の情報…… '05年度の本校の教員は80名前後で，日本各地からの派遣教員の持つ進路情報は豊かで，中国各地区の日本人学校からも日本国内の国公私立中・高校の情報問い合わせが相次ぐ。

・学校長の日本国内の高校訪問……多数の子ども達が転出していく小中学校，卒業後の選択する中高校が日本国内であることから，国内の私学の中・高校とは深い信頼・強い連携が求められる。上海日本人学校をアピール，可能性をもつ本校の子どもたちのアピールを狙いとし，毎年11月末～12月に国内10校～20校の私立中・高校を訪問し，「上海日本人学校の卒業生，転出生」をアピールしてくる。

・現地校・インターナショナル校との連携……インターナショナル校や国際部創設の現地校と連携を強化している。【トップが動く】場が必要で，新たに，延安中学国際部，復旦大学付属中学国際部，華東師範大付属中学国際部，虹橋中学国際部等の現地校への訪問や日本人学校への招待等，校長自らが進路情報・拡大の機会・場を重ねている。また，市内の各インターナショナル校の連絡協議会を活用し，進路先の多様化・拡充や情報収集に対応している。

・進路指導の充実……進路指導主任（部長）の専任，進路指導室の新設，進路指導計画の改訂など，進路指導の充実を図り，子どもや保護者の願いに応える体制づくりをする。

5．最後に

今回，本校の転出・進学について，まとめてみたが，現在，在籍する児童生徒は以前の駐在員の子女に加えて，国際結婚している家庭の子女の割合が多くなりつつある。在中国の邦人子女が急増している昨今。在外での教育環境における学校選択肢（日本人学校・補習授業校，インター，現地校）だけではなく，将来の転出・進学時における進路選択が多様になっており，保護者や子ども，学校当事者にとって，悩める大きな課題になって，続くと思われる。

同じ上海の空の下で，上海日本人学校（虹橋校・浦東港）両校で学び，転出や卒業した子どもたちが，どこで学びを深めようが，上海日本人学校の校歌「黄浦の水は海をこえ，わが故郷の岸をうつ……，さあ　かけ渡そうよ　色あざやかな　虹の橋」と心をひとつに歌い，将来「日中のかけはし」となり，世界平和と共生を大切にした，国際感覚を身につけた国際人に育ってくれる　ことを強く願う。